

RadioDays



ラジオデイズ

声には、
人の体温があり物語がある

月刊「ラジオデイズ」8月号 (通巻第27号)

2009年7月28日発行

【発行人】赤塚祐一郎

【編集人】大森美知子

【発行所】株式会社ラジオカフェ

東京都新宿区新宿1-6-5 シガラキビル6F

Email: info@radiodays.jp FAX: 03-5356-8281

http://www.radiodays.jp

August Edition
2009, vol.27
Free of charge

8

この人の声が聴きたい◎8月

鷲田清一さん (哲学者・大阪大学総長)

ヨウジヤマモトを 纏った大学総長

著書のリストや経歴を聞すれば、どこから
見ても哲学の泰斗ということになる。モーリ
ス・メルロー、ポントレイやロラン・バルトと
いったフランス構造主義哲学者の解説者であ
ると同時に、哲学的な成果を教育や生活の現
場で活用する術を心得た稀有の学者でもある。

その鷲田清一さんと初めてお目にかかった
のは大阪の、鯨肉を食べさせる酔狂な店の座
敷である。座敷といっても政治家が密談をす
るような、床の間に掛け軸の下がった高級料
亭の一室ではない。路地裏の大衆酒場に設え
られた半個室といった風情の気の置けない場
所である。引き合わせてくれたのは大阪の名
物編集者である江弘毅さん。(有名なだんじ
り祭りの世話人であり『街場の大阪論』の著
者でもあるエネルギーシナなおつさんである)。

その店で三人は大いに飲み、大いに議論を
したのだが、何を話したのかはほとんど覚え
ていない。要するにただの酔っ払い状態であっ
た。ただ、意気投合し、店にあった鯨のかつ
らをかぶり、大声で笑い合っていたことはデ
ジカメに残っていた写真が物語っている。鷲田
さんからは、哲学者風の気難しさや、大学教
授の尊大さといったものかけらも見出すこ
とができない。やわらかい表情とはんまりと
した京都弁の端々に深い教養と反骨の気風を
漂わせるといった不思議な印象を湛えている。

これが、あの鷲田清一かと私は思った。いや、
感嘆したと言ったほうがよいと思う。なぜな
ら、頭脳にあふれるほどの教養と哲学を感じ、



比肩するものがない経歴を有しながらも、な
お威厳や驕りといったものの対極にあるよう
な「やはらかさ」に身を包むなどは余人に及
びがたい芸当といふべきだからだ。どこにそ
の芸の秘密が隠されているのだろうか。

結論を先に言ってしまうえば、その秘密がど
こにあるのかはよくわからない。いや、も
もと秘密などないのかもしれない。現代のよ
うに錯綜した社会の中で、どのような立場に
おいても、どのような場所においても、常に自
然でいられることは、それ自体がひとつの芸
だと言ってもよいように思う。例えば大学教
授であれば、それなりの風格を要求される。
哲学者であれば威厳とかカリスマ性といった
ものも必要かもしれない。ましてや国立大学
の総長ともなれば、その立ち居振る舞いに至
るまで何がしかの構えというものが期待され
るのが世の常である。しかし、鷲田さんはい
つも「やわらかい反骨」と「おしやれなファ
ッション」に身を包み、少年のような好奇心
でひとの話に聞き耳を立てている。それが、
鷲田清一の自然体なのである。

そして、ひとたびこの自然体に接したものは、必ずその不思議な魅力の虜になる。大阪
大学はこの人を総長に選んだということだけ
でも賞賛されるべきだろう。かれは大学教授
や哲学者である前に、その存在自体がひとを
惹きつける存在であり、その存在がひとを
惹きつける存在であるのだ。

(ラジオデイズ・プロデューサー 平川克美)

ラジオデイズは、文芸・対話・話芸を三本の柱に、
声のもつ魅力に特化した音声コンテンツを制作し、
ダウンロード販売するWebサイトです。

飄逸で含蓄のある随筆、瑞々しい感性の横溢す
る詩歌や小説の朗読、個性的な対話者たちの真摯
な言葉の応酬から生まれる知的交歓、粋と人情の
落語や講談などなど、大人のお楽しみにたえる魅
力的なコンテンツが満載です。

ただいま入会随時受付中!

会員 (会費無料) になられると、期間限定の無料コンテンツ
がお楽しみいただけます。サイトでは、声の魅力を凝縮した
コンテンツのすべてが試聴できるほか、演者のプロフィール
やコラムなど読み応えも十分です。どうぞお立ち寄りを!

<http://www.radiodays.jp>

〈対話・放談〉

人気メルマガでおなじみ、田中
宇氏のニュース解説『世界はこ
う読め!』、人気コラムニスト小田嶋隆氏が世相を斬る『グ
ラフィカルトーク』、大貫妙子さんや加藤和彦さんなど、ミ
ュージシャンの話を伺う『Music Talk』、ラジオ
番組『ラジオの街で逢いましょう』の番外編『ラジオ街ブラ
ズ1』が好評。さらに、慶應丸の内シティキャンパス (慶
應MCC) 開催の『夕学』のなかから、各分野の第一線で
活躍する研究者・経営者・文化人・ジャーナリスト等によ
る講演を厳選してお届けしています。

〈文芸〉

作家の関川夏央さん、小沢昭一さん、詩人
の清水哲男さんなど多彩な解説者を迎えた
『声のエッセイ』コレクションが評判。また、『声の詩集』
シリーズからは、女優馬九せつこさんの朗読、詩人の正
津勉氏がナビゲートする『詩人の愛』I・IIをお届け中。
女優有馬稲子さん朗読の『水仙』も登場。さらに本邦初
となる落語家・入船亭扇辰師、柳家三三師朗読による江
戸弁で聞く落語調『ゴリ』『外巻』『鼻』も発売。詩人の
小池昌代さんのコラム『言問い小路』も好評連載中。

〈話芸〉

ラジオデイズ収録の新鮮なオリジナル音源
二百六十本余をお届け中。時代に磨かれた
古典を自家楽籠中に現代に演じきる噺家たち。そして、時
代の流れから湧き出た、かつて語られたことのない新作に
満ちる噺家たち。ライブ音源だけに一期一会の噺に出会
えます。不定期ですがラジオデイズイチャオシの噺家さんの
演目を無料ダウンロードにて提供していきますので、毎日
覗きにきてみてください。まずは、試聴ボタンを。

オリンパスモビー寄席

【日時】8月18日(火)午後6時45分開演(午後6時15分開場)
【場所】お江戸日本橋亭

すべての落語は新作として生まれ、数多くの噺家によって高座にかけられ、生き残ったものが古典になる……。それを自家葉籠中に演じざる現代の噺家たち！ 人情の機微に触れ、免疫力増進の涙と笑いの宝庫、至福の話芸の真剣勝負。

春風亭百栄

(しゅんぷうてい、ももえ)

春風亭栄枝に入門。平成二十年九月に真打昇進。栄助改め百栄。ロサンゼルスで寿司職人をしていた異色の経歴を持つ。日常で見かける個性的な人を徹底的に観察し、そのキャラクターをリアルに演じる新作落語に定評がある。古典落語のDNA変換で世界を驚愕させる、やさしい国際派！



米粒写経

(こめかきまき)

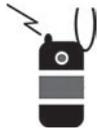
平成一〇年にデビュー。オフィス北野所属。幅広い題材で東京の若手漫才師の中で最も激しく笑わせるコンビ。個々の活動も活発で、居島はトークライブ、イラストを生かした本の挿絵などを勤め、タツオは趣味のアニメを生かした執筆、お笑いコンビのプロデュースなども手がけている。



明烏い話

連載第28回

本田久作



円朝は八町荒らしと言われた。当時としては最高の人気者のたとえである。そして、であったからこそ円朝はやはりすごいという人もいるが、果たして人気があることがそれほどよいことかどうかは私にはよくわからない。人気者とは万人向けの芸をする人のことである。私は万人向けの芸をする芸人がいてもいい、いや、いなくてはならないと思っているが、そういう芸に対してはいささか疑いを持っている。百人の客すべてを納得させるためには、どうしても芸の水準を下げなければならぬ。何故と言うに、これは言ってはならないことだが、敢えて言わせていただくと、客の八割までは馬鹿だからだ。人気者とはこの八割に迎合する芸人のことである。ならばその芸は推して知るべきであろう(三平がすごかったのはこれを逆手にとったからである)。

ある時、円朝が喉を痛め、出演中の寄席を休んだことがあった。円朝一人の穴を円朝の弟子数人で埋めたのだが、円朝が病欠と知ると客の数がどんどん減っていく。具合がよくなって円朝が再び寄席に出ると、客は待っていたとばかりにやって来る。その様を見て円朝が我が師匠ながら大したものだ、私たち数人がかりでも師匠一人にかなわない、と舌を巻いたというから、円朝も円朝の穴を埋めた弟子の一人だったのだろう。

かかのように円朝は自分よりも圧倒的に客を呼べる円朝を絶賛しているが、同門の兄弟弟子円遊については大した評価を与えていない。円遊は一晚で十数軒も寄席を掛け持ちしたため、人力車の車夫が最後は血反吐を吐いたという逸話が残っているほどの人気者である。けれどもそのことで円朝が円遊を敬っていた形跡はない。いかに円遊に人気があっても、芸は俺の方が上だという自負が円朝にはあったのだろう。その円朝が客の動員数について円朝を誉めたのは、自分より芸も上だが人気も上だと思っていたからである。

円朝は名人と絶賛された人だが、その円朝ですら円朝にはかなわないという証言が多く残っている。それらの円朝礼賛の言葉を信じるとしても、それでも私は円朝に対してどこか引つかかるものを感じてしまう。明治初年に円朝は高座で、近頃、武家の娘が商売をはじめ、それが繁盛しているそう、これは時節柄結構なことですが、と噺の枕で誉めている。私が思うに、江戸の身分制度の尻尾をまだ引きずっていた当時の人々の感じからすれば、農工商の上に立つ侍の子どもが商いに手を出すのは恥である。それを時節柄結構と言うのは、その時代のお上に対する迎合である。おまけにそういうことを言う円朝には政府高官という紐がついている。であれば、迎合どころか、これはお上に対する媚びであろう。そこまで悪く言うのはあんまりだというのであれば、円朝はその時々で流行っている御高説もどきをよろこんで口にする床屋談議の語り手ではない。その証拠を明治二十年というから円朝が五十歳の頃の高座で馬場孤蝶が聞いている。その時円朝は噺の枕で「あまりに平凡な教訓的な言葉が混じった」ため、客にやじられたという。今の寄席にも時々こ

ういう芸人が出てくる。「北朝鮮は日本人を拉致なんかして悪い奴です」と言って、しかもその話にオチがないのだ。そりゃあ拉致をする奴は悪い奴だろうが、そんな当たり前のことを金を払った客に聞かせるのは無粋を通り越して犯罪である。円朝が名人であったのは間違いないと私は思っている。けれども、とも私は思うのである。ただ、その「けれども」の後がなかなか上手く続かないのだ。

●ほんた、きゆうざく

一九六〇年大阪府生、落語作家。「仏の遊び」が国立演芸場日本舞臺作受賞以来、落語、漫才など新作台本関係の賞を毎年総ナメの業界巨匠の新進作家。主な受賞作「玉手箱」(国立演芸場日本舞臺優秀作)、「唄の葬式」(按摩の夢)、「幽霊番長」(いずれも落語協会優秀賞)など

私の讃大ばなし

貳拾七

川柳川柳

老 『湯屋番』

三遊亭圓生師の多数の噺のなかでもたいへん好きな噺です。東京落語は三遊派と柳派とに大別されますが(大筋は同じだが、演出、くすぐりに多少の違い)、三遊のこの噺は時間が長く一時間くらいあり、くすぐりも多く、また放蕩息子がじつに面白く描かれております。

武 『笠碁』

これは柳の代表的な名作です。いろいろな人が演じますが、なんといっても五代目柳家小さん師が最高でしょう。あの梅雨の鬱陶しき、善敵との駆引き、絶品です。二つ目のとき教わりましたが、なかなか演れません。今の芸風ではもう演ることもないでしょうが、大好きな噺です。

参 『ガーン』

さてドンジリに控えしは……、戦後最高と自負している、この音曲断です。自身が好きでなければ三十年以上にわたって演りつづけてはこれありません。なにしろ私の半生を語っているのですから飽きるはずがない。今後寄席へご来席の皆様、充分覚悟の上お越し願います。

「声」や「器」をタンクロード！
今が旬の音声コンテンツ満載
<http://www.radiodays.jp>

齒に衣着せぬ発言で世相を斬る痛快トーク

●「田中宇の世界は、こう読め！」

●「小田嶋隆のグラフィカルトーク」

ミュージシャン・ロングインタビュー

●「Music Talk 大貫妙子の世界」



温もりと味のある声のエッセイ／新鮮な詩の物語り

●「詩人の心の原風景（谷川俊太郎）」

●「水仙」瀬戸内寂聴（朗読・有馬稲子）

●「詩人の愛 金子みすゞ、中原中也、村山槐多ほか（鳥丸せつ）／正津勉」



本邦初！世界初！江戸弁で聴く落語「ゴゴリの魅力」

●「外套」（I～III）

入船亭扇辰

●「鼻」（I～II）

柳家三三



面白くて物凄い、当世落語家の斬がい。ばい三遊亭円丈、昔昔亭桃太郎、五街道雲助、古今亭志ん五、柳家小ゑん、瀧川鯉昇、柳家喜多八、柳家市馬、桂平治、柳家喬太郎、三遊亭白鳥、三遊亭遊雀、入船亭扇辰、林家彦いち、古今亭菊之丞……etc.

ラジオデイズサイトにようこそ！

※ご購入や無料ダウンロードには会員登録（無料）が必要です。



こみちが行けば

女流二ツ目の修行日乗 26



柳亭こみち

宅急便が届いた。クール便だ！焦ってテーブルを引っぱがす。中は大量のアイス。ため息が出た。我が家は冷凍庫がない。

頂いた食べ物でずいぶん命を繋いできた。菜屋の残り物も有り難く頂戴し、再調理してでもかならず頂く。でも悲しきはクール便。半年前に届いた生の蟹は、数日家を空けてやっと受け取ると、異臭と共にへ本日中にお召し上がり下さい。と。味噌はあきらめ足だけ頂いた。

出かける直前に届いたアイス。実家に送る時間もなく、しぶしぶ大家さんの所へ。「どうぞご家族で」「少し持って行ったら？」「じゃあ二つ。駅へ歩きながらパクついた。抹茶味とくるみ味。自分じゃ買えない上等な品だ。保存さえできたらなあ……」

部屋には造り付けの小さな冷凍庫のみ。それ以外に置く場所はない。二ツ目になっても住めるぞ。前座時代、師匠が勧めてくれた部屋。ここで苦業を越え自身と向き合ってきた。冷凍庫がないと、引越しは「師匠離れ宣言」のようで気が乗らない。一人暮らしに都合のいい部屋を見つけたら、伴侶を持たなくなるのでは？ いろいろ天秤にかけこの部屋に、冷凍庫がないまま住んでいる。そして心に決めていた。「アイスは買ったらずぐ食べる」。そこへ届いた好物のアイス。冷凍庫がないためにこも恨めしい思いをしようにとは。数日後、大家さんには「おいしかったわ！」

と満面の笑み。「それは良かったです！」と応えた私の手には、「コンビ二で買った、アイスが握られていた。」

●りょうてい・みち
社会人生活を経て、平成15年柳亭燕路に入門。18年11月二ツ目昇進。趣味は長門。特技は日本舞踊、吾妻流名取（全量春美）。落語協会野球部・チームR所属。



味な脇役・話芸のきまり文句

連載第27回

主従



松井高志

落語や講談、むかし作られた芝居などで、多分現代人にもっとも縁遠いと想像される、しかも筋の中できわめて重要な要素が主従関係である。次のような文句は、しばしば落語（たとえば五代目志ん生の「風呂敷」などの冒頭）にも出てくるのでおなじみだ。

親子は一世、夫婦は二世、主従三世で間男はよせ（四世）の洒落

主従（しゅじゅう）でなく「しゅうじゅう」、と読まなければなんだか気分が出ない。関係は、現在は勿論のこと、過去にも来世にもまたがる深い縁なのだ、というのである。これを近代以降の雇用・被雇用の関係に置き換えても全く通用しない。仁義忠孝を尊ぶ封建時代だから、タイトな主従の因みが常識として

諺にもなっている。従って、こういう文句は、封建時代ならではのローカルルールであって、頭では理解できるが我々の身にしみてはこない。当然「間男はよせ」という「サゲ」で笑わせるための文句なのだが、そのあたり、ことばの賞味期限として厳しくなってきた。たとえば殿さまが道楽で拵えたまずい蕎麦を、家来が無理に食べさせられる時は、

主命（あるいは君命）黙し難し

と大げさにいい、商家の主にも用を言いつけられた小僧は、

主ご病には勝たれな、

とぼやく。これらもある程度分かるが、昔の殿さまや商家の主がどれだけ絶対的な存在だったか、いまとなつてはおぼろげに想像することしかできないから、そこにファンタジックな響きさえ伴っている。

君辱めを受ける時は臣死す

なんてのが「赤穂義士伝」などには出てくるが、こうなつてくるとむかしの侍でなくても本心に良かったと思えない。もつとも、同じ「赤穂義士伝」には、

家来の恥は主の恥

という諺もある。結局持ちつ持たれつなのであるが、人間相互の関係というものが今よりもずっと濃いなら濃いで、侍も商人も昔は大変だった（らしい）のだ。

●まひ・たかし

一九六〇年愛知県生。月刊誌編集者を経てフリーライター。著書に「人生に効く！ 話芸のきまり文句」平凡社新書、「フンドク」難読漢字自習帳（バジリコ）「江戸に学ぶビジネスの極意」アスペクトなど。「話芸」きまり文句。辞典。サイトは<http://wagaidon.cooplogcity.com/>

第28回オリンパスモビー寄席

桃月庵白酒独演会

【会場】お江戸日本橋亭「本戸銭」2800円 前売2500円
【時間】午後6時45分開演 午後6時15分開場

●9月15日(火)

桃月庵白酒・「ゲスト」三遊亭天どん

※予約申込受付中。ラジオデイズ URL <http://radiodays.jp> もしくは、予約受付専用電話(03-1113-1113)より、先着順です。

第29回オリンパスモビー寄席

立川談笑独演会

【会場】牛込筋区民ホール「大戸銭」牛込線「牛込神楽坂駅」A1出口すぐ
【本戸銭】2800円 前売2500円
【時間】午後7時開演(午後6時半開場)

●10月23日(金)

立川談笑・「ゲスト」ロケット団

※予約申込受付中。ラジオデイズ URL <http://radiodays.jp> もしくは、予約受付専用電話(03-1113-1113)より、先着順です。

ラジオの街で逢いましょう

ラジオデイズでは、声と語りの魅力を求めて、深夜のラジオ番組も制作・放送しています。お相手は、ラジオデイズプロデューサーの平川克美、菊地史彦、伊藤博、大森美知子が務めます。これまでの放送分は、ラジオデイズサイトにてストリーミング放送中。さらに、ポッドキャストでも配信中です。どうぞ真夜中の語らいに耳を傾けてみてください。

<http://www.radiodays.jp>
インターFM毎週日曜日の深夜23時から23時半まで。

今後の放送予定 (深夜のお客様)

- 8月2日 三遊亭円窓 (落語家)
- 9日 玉村豊男 (エッセイスト・画家)
- 16日 広瀬隆 (作家)
- 23日 紺野登 (多摩大学教授)
- 30日 柳家小ゑん (落語家)

文月の落語会

第二十六回オリンパスモビー寄席(七月十四日)は三遊亭兼好独演会。開口一番はお馴染み春風亭ぼっぼさんでネタは「平林」。漢字の読み方の色々で笑わせる定番の前座、定吉がかわゆいのはご愛敬。さて登場は兼好師匠。月に帰ったかぐや姫のその後を物語る自作「月の姫」。天帝と結ばれたはずが離婚。夢よ、もう一度と地球に戻ってくるのだが……。

男女の心理の機微を突いたストーリー展開と、思わず笑わせてしまう小ネタがあいまって、観客は抱腹絶倒。続いてはゲストの春風亭一之輔さん。ネタは夏の定番「夏どろ」、貧乏長屋に泥棒に入ったばかりに持ち金すべてをやってしまった人のいい泥棒を熱演。ぶつきらぼうで突き抜けた面白さで古典落語に新風を吹き込んでいます。仲入り後は早くもトリで兼好師匠の二席目「ねずみ」。名人甚五郎のなかでも特に人気のある噺です。仙台にやってきた甚五郎、引きの子供に誘われ泊まった宿が、小さくうらぶれたねずみ屋だった。元は仙台一の宿屋虎屋の主人だったが、後添えと番頭に乗り取られたと聞き、ねずみの置物を彫って置いていく。基本に忠実な古典落語でも、それだけで終わらないのが兼好流。暗くなりながらもこの噺も隣の生駒屋さんが特異なキャラクターに変身して、笑えるものに変えてしまうのです。新作落語も古典落語も普通では終わらない、いつも新しい落語の魅力が楽しめる独演会でした。(ラジオデイズ寺和尚)



「声」と「語り」をダウンロード!

今が旬の音声コンテンツ満載 <http://www.radiodays.jp>

今最もブッキング困難な役者を揃えた特別対談。絶妙な話芸と目から鱗の文化対談をお届けします。

●戦後落語論

新作落語の旗手、そして教祖的存在である三遊亭円窓に、新進の落語作家本田久作がからむ。落語ファン待望の新作落語黎明期の真相話が炸裂。



三遊亭円窓

本田久作

●戦後詩人論

戦後作家の中心的存在であり鋭利な批評家でもある高橋源一郎が、生粋の詩人にして川端康成賞の小説家でもある小池昌代と現代詩について話し合う。



高橋源一郎

小池昌代

●戦後マンガ家論

脳生理学者であり京都漫画ミュージアム館長でもある養老孟司と小林秀雄賞受賞の現代思想家内田樹。マンガに一言あるこのふたりが存分に語り合う。



養老孟司

内田樹

そのほか、面白くて物凄、朗読や落語がいっぱい。ラジオデイズサイトによるこそ！
※ご購入や無料ダウンロードには会員登録(無料)が必要です。

「オリンパスモビー寄席」携帯用特別コンテンツ

モビー寄席特別コンテンツでは、モビー寄席やラジオデイズ落語会にご出演いただいた演者さんの情報や音源、最新のラジオデイズイベント情報が携帯電話からお楽しみいただけます。



p@mobeep.jp

バーコードで簡単アクセス!

左のQRコードを携帯のカメラで読み取り、メールを立ち上げて撮影写真を添付し送信。
※ドメイン指定受信の設定をされている方は、mobeep.jpを追加してください。

月刊ラジオデイズ各号の1ページ目『この人の声が聴きたい』の丸抜き写真、見開きページの落語家さんのプロフィール写真を撮影、メールに添付して送信すると、アクセス先URLが記載されたメールが返信されてきます。



Mobeep (モビー) とは?

オリンパス(株)とホスティング・アンド・セキュリティ・インクスの共同開発による、携帯サイト作成ツールと先進の画像認識技術によるサイトアクセス方法を月あたり263円~という低価格でご利用いただける携帯サイト作成サービスです。

個人の方から法人のお客様まで自分専用の携帯サイトを簡単に開設することができます。用途に応じて、クーポン作成やメルマガ配信などのプランもご用意しました。お申し込みは、PCから <http://pdh.mobeep.jp> にアクセス!

ラジオデイズの窓から

蝉の声が聞こえるようになり、窓から眺める木々の緑が一年でもっとも美しい季節となりました。

さて、今年も落語に関するアンケート結果をサイトにアップいたしました。皆様ご回答ありがとうございます。恒例の「落語に関心は？」に加え、「落語を演じたら似合う有名な人」などの質問も増えてさらに充実した内容となっております。ぜひご覧ください。